

## 報告書抄録

ふりがな	うしろやま・あぜくらいせき							
書名	後山・畦倉遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	国道161号（志賀バイパス）建設工事関係遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	瀬口眞司・大澤正己・鈴木瑞穂							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課／財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	大津市京町四丁目1番1号／大津市瀬田南大萱町1732番2号							
発行年月日	平成19年（2007年）3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
うしろやま あぜくら 後山・畦倉	しがけんおおつし 滋賀県大津市 きたひら 北比良	25301	007	35度 14分 15秒	135度 56分30 秒	050511 ↓ 050621	335m <sup>2</sup>	国道161号 （志賀バイパス）建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
後山・畦倉 遺跡	生産	奈良時代頃		製鉄遺構	鉄鉱石・木炭・鉄滓・炉壁・ 鉄塊系遺物		理化学的分析 の実施	
要約	<p>8世紀中頃から9世紀頃の製鉄遺構1基と若干数の土坑等を検出した。検出された遺構の集中範囲は直径20m程度だった。製鉄作業は、常緑広葉樹（照葉樹）のコナラ属アカガシ亜属の木炭を一貫して用い、比較的高品質の鉄鉱石を還元するもので、県内の製鉄遺跡に類似する技術で3次にわたる操業を行い、一貫して同様の品質の鉄を生成していたことなどが確認された。なお、県内のほかの製鉄遺構に比べると鉄歩留まりがやや低く、生成鉄は炭素含有量の低い鉄塊の割合が高かったようである。従って、生成された鉄は建築部材などの地金として供給されていた可能性が高い。なお、調査範囲が狭いため断定できないが、精錬鍛冶や鍛造鍛冶の工程の痕跡が確認されない点や、可能性として1時期・1基・1炉しか設営していない点で、諸工程を大規模に展開する瀬田丘陵製鉄遺跡郡とは異なっていた可能性がうかがえた。</p>							